

2021年12月6日(月)

老球の細道644号

トスティン・ロイブルのオンラインクリニック③

会津バスケットボール協会 室井 富仁

ちょうどオンラインクリニックを実施している時、チェコのプラハではチェコU-16ナショナルチームの強化合宿が行われていた。一部その練習風景も見ることができた。今の時代、外国まで行かなくともパソコンで外国の練習を見ることができる。夢のような話である。

チェコ代表を率いるロン・コーチがゲストスピーカーとして今回のオンラインクリニックに参加した。彼がこの合宿で将来のタレントを発掘し、育成する「WILLING ACTION (ウィリングアクション)」なるコンセプトを発表してくれた。日本の状況にも十分マッチする内容なので紹介したい。

【ウィリングアクションとは何か】

ゲームスタッツに表れない行動のことを言う。ウィリングアクションはバスケットボールの能力や身体能力のことを言うのではない。バスケットボールに取り組む態度や意志のことを言う。ウィリングアクションは将来大成する準備になるものである。

【オフENSIB・ウィリングアクションの例】

- ◆オフENSIBリバウンド：シューターの指がボールから離れた瞬間どのように動いているか。シュート後のアクションをプラスとマイナスで評価する。ボケっと突っ立っている時はマイナスの評価。
- ◆プッシュ、プッシュ、プッシュ：マイボールになった瞬間アクションを起こしているか。
- ◆スペーシング：ボールがどこにあるか見て反応しているか、チームメートがどこにいるか見ているか。
- ◆フィニッシング：コンタクトを受けながらシュートを決めるか、ゴールに向かっているか。

【ディフェンシブ・ウィリングアクション】

- ◆ダイナミクディフェンス：インサイドプレイヤーのディフェンスは常にフルフロントに位置しているか。
- ◆ボールマンディフェンス：ボールにプレッシャーを加えているか、常に手を使っているか。
- ◆クローズアウト：どんなに離れていても必ずクローズアウトをしているか、クローズアウト後1回目のドリブルで突破されないか。

このようなチェックポイントを25項目くらい準備して合宿中のスクリメージで評価する。プレイヤーや所属するクラブチームにも連絡し、選手と共に課題を意識させる。ロン・コーチはよりよい選手になるためには、得点を取るだけでなく、このようにスタッツに表れない目立たない部分をいかに頑張るか、よりよくなりたいという強い意志があるかどうかを特に重視するという。

選手の将来に責任あるコーチは、目に見えない人間力に関わる部分に着目しなければならない。ジュニア時代の華やかな能力のみに目を奪われてはいけない。 <完>